

[EWE 先輩からのメッセージ]

人々の生活を支える 技術者として

EWE 先輩と学生との交流会にお招きいただきありがとうございます。僭越ながら EWE の先輩として、少しでも皆さまの進路選択にお力添えできれば幸いです。

私は学生時代、「誘電体材料」を専門とした研究室で研究を行っておりました。ただし、教授の退任に伴い、大学院には進学をしない選択をしたため、研究を行ったのは就職活動が終了後の1年弱でした。大学時代の思い出は専らバトミントンサークルの活動とアルバイトです。そんな私の学生時代の思い・反省を語らせていただきます。

私の場合、大学3年生の夏から就職活動を始めました。初めは理系職にこだわることなく、様々な企業の説明会・インターンシップに参加しました。その中で、高い技術力を武器に働く先輩方の姿を見て、次第に理系職に惹かれていきました。自分たちの提供するサービス・技術力が目に見えて人々の生活を支えている実感を得ることができれば、仕事のやりがいに繋がると考え、「人々の生活を直接支える」ことを就職活動の軸として、インフラ業界(鉄道・航空・携帯キャリア・電力会社)を志望するようになっていきました。

皆さまは「JR 東日本」と聞いて、どのような仕事を思い浮かべますか？ 駅員や運転士のイメージが強いのではないのでしょうか？ 実は鉄道業界では皆さんの想像以上に多くの技術者が活躍しています。その一つが私もいる「電気」に関する部門です。弊社は水力と火力発電所を有しており、

東日本旅客鉄道株式会社

電気システムインテグレーションオフィス
プロジェクト推進部(電力)

大家 可純

先進理工学部
電気・情報生命工学科
大木研究室
2020年3月卒業



自社の送電網を用いて、電車や駅設備に電気を送っています。大学で学んだことを活かし、発電・送電・変電・配電・消費の全てに携わることができ、点に魅力を感じ、入社を決めました。実際、自分たちが保守している電気によって、電車が動き、多くのお客さまが駅をご利用されているのを見かけることで、日々やり甲斐を感じています。

これまでの社会人生活を振り返って、学生時代に学んでいて良かったことは、電気主任技術者資格に関する科目です。在学中は単位を取ることに必死で、理解できなかった内容もありました。しかし仕事を通じて、授業で学んだ知識と実務が繋がる感覚を味わうことができ、今となってはとても有意義な4年間であったと思っています。

一方で、1年弱という短い期間での研究活動については後悔している点もあります。研究内容が仕事に直結することは少ないですが、「仮説を立て実証する」「自分の考えを他人に伝える」「誰もが分かりやすい資料を作成し、発表をする」など研究を進めるための過程は仕事にも共通します。これらのスキルを学生時代にもっと鍛えておけばよかったという心残りがありません。

皆さんは今、今後の40年以上の社会人人生を決める大きな分岐点にいます。後悔のない、素敵な就職先に巡り会えることを心より願っております。